

日光東照宮と北極星

元和二年四月十七日、この世を去った家康は、一年後、東照大権現として日光山に祀られました。幕府のある江戸や、居所だった駿府城からも遠く離れ、徳川家と縁故の地でもなかった日光山。家康が何故、日光山で東照宮となったのかについては、様々な説があります。その一つが、北極星信仰が関わっていた…という説です。

北極星は古来より、天に座する全ての星を統べ、宇宙を司る「天帝」を表すとされてきました。日本でも、北極星や北斗七星を神格化した妙見（北辰とも）菩薩は、国土を守護し、災害を退けるとして古くから信仰を集めています。（あの葛飾北斎なども妙見信仰で知られます。）

日本地図で日光山を見てみると、江戸の北方に位置することがわかります。北の不動の位置にあり、人々の信仰を集める北極星。家康は死に際し、「八州之鎮守に可被為成」と言い残したとされますが、政の中心を為す江戸から仰ぎ見る北の日光山こそ、家康が「北極星（天帝）」となり、日本を護る神となるに相応しい場所だったのではないのでしょうか。その日光東照宮を、様々な工夫や仕掛けを凝らして造り上げたといわれるのが、家康の懐刀の一人、南光坊天海。風水などの知識を駆使し、江戸の町づくりにも深く関わったとされる人物です。



日光山輪王寺蔵の「摩多羅神二童子像」。頭上に北斗七星が見えます。箱蓋の裏には、「元和三丁巳 大僧正天海」とあるそうです。

天海が、東照大権現の配祀神（主祭神と共に祀る神。主に主祭神と縁故の深い神を祀る）として配したのは、山王神と摩多羅神。この二神は、どちらも北斗七星に関わる神といわれます。天帝（北極星）が宇宙をあまねく巡り、天を治めるための乗り物と言われる北斗七星。そう考えるならば、天海が家康を北極星として祀るため、配祀神に二神を選んだのもうなずけます。（※なお、明治の神仏分離以降、配祀神は源頼朝と豊臣秀吉（!）となりました。）

実は、日光にはまだまだ謎が隠されているのだとか。生前「狸親爺」と称された東照大権現様は、天下泰平の世を祈りつつ、その謎が解き明かされるのを、にやりとしながら見守っている…のかも。

おんりえどこんぐじょうど

厭離穢土欣求浄土の心

寛文年間に編まれたといわれる『難波戦記』。その「御旗本合戦附扇子の御指物の事」に、家康の指物について、次のような記述があります。

「又、前將軍家に御吉例の御旗あり、白布に、墨を以て厭離穢土欣求浄土と書きたり、これは三州浄土宗大樹寺の和尚登誉上人の筆なり、御筥に入れられ、御側に置かせ給ふ」

指物は、戦場で自軍の目印としたもの。家康の旗印に書かれていた言葉には、このような伝承も伝わっています。

織田信長が今川義元を破った「桶狭間の戦」。この時、家康は今川方の武将でした。敵兵に追われた家康は、代々の菩提寺であった大樹寺に逃げ込み、最早これまで、と先祖の墓前で自害をはかります。それを止めたのが、住職の登誉（とうよ）上人でした。上人は、家康の先祖である松平親忠氏が、いつか子孫から將軍となる者が出ることを願い、將軍の別称である「大樹」を寺号に、この寺を創設したことを語りました。そして「厭離穢土欣求浄土」（穢れたこの世を離れ、浄土に往生することを願い求める）という浄土宗の言葉を幟に書いて与え、励ましたといわれています。

時は戦国。続く戦で、民草は苦しめられるばかり。当時十九歳だった家康は、いつか自分こそがこの戦を終わらせ、平和な世界を築きたいと強く願い、奮起したのではないのでしょうか。

なお、家康は遺言で、自身の位牌は大樹寺に安置せよ、と残しています。現在も大樹寺では、代々の將軍家の等身大の位牌が祀られています。



『姉川合戦図屏風』（福井県立博物館蔵）に描かれた家康とその旗指物

神になった男

徳川家康顕彰四百年



『徳川家康三方ヶ原戦役画像』（室町時代後期 徳川美術館所蔵）

元龜三（1572）年、武田信玄は二万五千の軍勢を率いて遠江に侵攻しました。家康が守る浜松城を避け、西に進軍する武田軍。その時、家康方の兵はわずか八千。織田信長からの援軍を足しても武田軍の半分にも満たない兵力ながら、家康は進軍する武田軍を追撃します。しかし、三方原台地で待ち伏せをしていた武田軍に完膚無きまでの大敗を喫するのです。これが世に言う、「三方原の合戦」でした。

この絵は、別名「^{しかみ}鬘像」。命からがら浜松城に逃げ帰った直後の家康の姿なのだとか。

多くの大切な兵を失ったこの負け戦を、終生肝に銘ずるため、家康自身がこの絵を描かせ、自身への戒めとしたと伝えられています。

青森県立図書館 参考郷土室

〒030-0184

青森市荒川字藤戸 119-7

電話：017-729-4311 / FAX：017-762-1757

http://www.plib.pref.aomori.lg.jp

青森県立図書館 参考郷土室

2015

神になった男 徳川家康顕彰四百年

家康の軌跡

タイトル	著者・編集者	出版社	出版年	ラベルの記号	本の番号
TOKUGAWA 15 徳川将軍15人の歴史がDEEPにわかる本 定本徳川家康	堀口菜純/文・絵	草思社	2011	288.3 ホリグチマ	10214259507
逆転「関ヶ原」 詐欺師家康、豊臣内部を乱す！	小林真一/著	きらめく星座社	2009	210.48 コハヤシ	10215725970
神君家康の誕生 東照宮と権現様 史疑徳川家康	曾根原理/著	吉川弘文館	2008	175.9 ソネハラサ	10213752769
家康と伊賀越えの危難	川崎記孝/著	日本図書刊行会	2002	210.48 カサキキ	10212834011
関ヶ原合戦四百年の謎	笠谷和比古/著	新人物往来社	2000	210.48 カサカ	10212530493
家康はなぜ江戸を選んだか	岡野友彦/著	教育出版	1999	213.6 オノト	10212343735
山本七平ライブラリー 6 徳川家康	山本七平/著	文藝春秋	1997	081.6 ヤマトシ (6)	10212079953

家康を取り巻く人々

タイトル	著者・編集者	出版社	出版年	ラベルの記号	本の番号
真田信繁 「日本一の兵」幸村の意地と叛骨	三池純正/著	宮帯出版社	2009	289.1 サダギ	10214059947
名参謀・直江兼続 秀吉・家康がその才覚に恐れを抱いた男	小和田哲男/著	三笠書房	2008	289.1 ナオキ	10213859813
さむらいウィリアム 三浦按針の生きた時代	ジャイルズ・ミルトン/著 築地誠子/訳	原書房	2005	210.5 ミルトンジ	10213444458
政界の導者天海・崇伝	圭室文雄/著	吉川弘文館	2004	188.42 テンカイ	10213228855
芋汁武士道 家康と徳川家臣団	桜田晋也/著	祥伝社	2000	913.6 サラダ	10212440906

物語の中に顕れた家康

タイトル	著者・編集者	出版社	出版年	ラベルの記号	本の番号
家康の遺言	仁志耕一郎/著	講談社	2015	913.6 ニシキ	10214533909
峠越え	伊東潤/著	講談社	2014	913.6 イトウジ	10214404155
金ヶ崎の四人 信長、秀吉、光秀、家康 あるじは家康	鈴木輝一郎/著	毎日新聞社	2012	913.6 スズキキ	10214266077
徳川家康の初恋 ゆめまぼろしのごとくなり 天文十六年（一五四七）～慶長二十年（一六一五）	水野津よ/著	草輝出版	1995	913.6 ミズノキ	10211124080

こちらのサイトもおすすめです。

徳川家康公顕彰四百年記念事業 http://www.ieyasu400.com/	家康公顕彰四百年記念事業の公式サイト。所縁の寺社や伝説の地を紹介する「大御所・家康公史跡巡り」や、イベント情報が確認できる他、静岡新聞連載の「大御所の遺産探し」もweb上で読むことができます。
大御所四百年祭記念 家康公を学ぶ http://www.visit-shizuoka.com/t/oogoshou400/index.htm	家康公が大御所として駿府城に入城してから四百年目となる2007年に開催された、「大御所四百年祭」の公式サイト。楽しみながら学べる情報が満載。基本図書リストや資料リストも必見です。
日光東照宮 http://www.toshogu.jp/	日光東照宮のHP。由緒や社殿についても知ることができます。四百年式年大祭は平成27年5月17日に行われましたが、今年是一年を通して関連行事が行われます。要チェックです。

※紹介している本は、多くの資料の一部です。お探しの資料が見つからない場合には、職員にお尋ねください。